

様式第2号（第5条関係）

平成29年 1月 11日

出張報告書

栗山町議会議長 鵜川和彦様

栗山町議会議員

三田源幸 

このたび、下記のとおり出張いたしましたので報告します。

記

- 1 期 日 平成28年 11月21日 ～ 平成28年 11月22日まで
- 2 旅行先 東京都町田市
- 3 目的 公会計制度の取り組みについて。
- 4 関係書類 別紙のとおり



日 時	平成28年11月22日 10:00 ~ 12:00
視 察 先	東京都 町田市
調査事項	公会計制度の取り組みについて
対 応 者	財務部財政課
1. 視察目的 2. 視察内容 ①背景 ②特徴 3. 主な質疑 4. 考 察 (感想、政策提言、課題など)	町田市では2012年4月から企業会計に近い新公会計制度を導入しました。2015年決算において新公会計制度により明らかになった財務情報と課別・事業別行政評価シートを公表しました。シートには事業の成果と事業のために使用した費用が掲載されています。 これにより「事業の成果があがっているか、税金が効果的に使われているか」などが測るかにされています。 2008年に検討開始し「総務省の2つのモデル」と「東京都方式」と比較し、2010年の中間報告で「東京都方式」を採用することと決定した。 コンセプト ① 日々の会計処理に複式簿記を導入した全組織、全職員による取組 ② 課単位で課別行政評価シートを作成し、予算科目と課の単位に整理したことにより、課単位での作成が可能に ③ 財務上特に検討を要する事業について、事業別行政評価シートを作成 市民が理解できる「情報」であること!!

・組織の改革

① PDCA サイクルを意識した事業マネジメント

② 市民、市議会への説明責任の強化

③ 職員のコスト意識の高まり

・行政評価シートでわかること

① 事業の成果と関連付けた行政コスト

② 行政コストの経年比較

③ 単位あたりの行政コストによる効率性の分析

④ 事業のストックについての財務情報

⑤ 事業類型別の財務分析

⑥ 財務分析で明らかになった課題

職員の能力としては満足する程度で良い

システムは入力するだけで自動的に出来る

野田市のシステム導入コストは約1億円、ランニングコストは
年間 約 800万円です

評価シートは大変わかりやすく、予算、決算委員会も
これに沿って行われている様です

導入時にあたってはコスト面がしるべき問題である